

## 第85回 大江戸探索会(北上ふるさと会)

### 鎌倉(和賀江島)の歴史探索

案内人 阿部達彦

1.日 時 令和元年6月2日(日)

2.集合場所

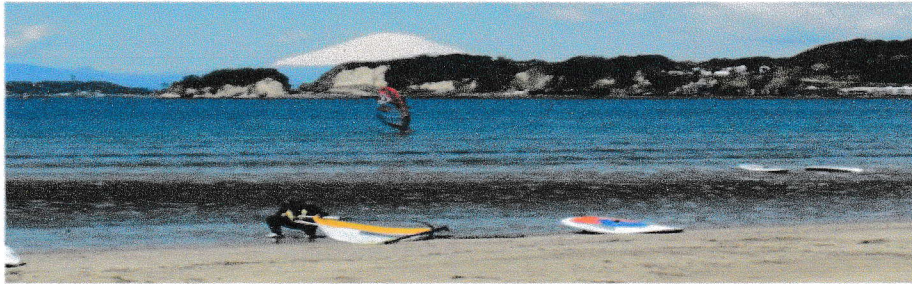
A班. 和賀江島清掃活動参加者 午前9時 JR(横須賀線) 鎌倉駅 東口

B班. 上記 A班以外の参加者 午前10時 JR(横須賀線) 鎌倉駅 東口

3.コース 鎌倉駅 バス→光明寺→和賀江島→由比ヶ浜海岸(昼食)→極楽寺→極楽寺駅→(江ノ電)→鎌倉駅→宝戒寺→荏柄天神→永福寺跡→(源頼朝の墓)→鶴岡八幡宮→鎌倉駅

4.解 散 午後5時 JR鎌倉駅

5.概 要



和賀江島(わかえじま/わかえのしま)は貞永元年(1232)執権北条泰時の時に鎌倉に造られた日本最古の港湾施設です。和賀氏の娘が北条家に嫁いだ縁で和賀氏一族が築港に関わりました。和賀江島の清掃・保全活動は昭和52年に開始され、今年が第43回目になります。岩手からは「北上和賀江島の会(代表 佐藤克英氏)」が参加し、今年で23年目になります。

(前略)和賀氏の祖は中条氏で、頼朝が石橋山で旗揚げ以来、御家人として活躍した中条義勝房成尋であり、成尋が和賀・稗貫の地頭職をうけ、その長男の家長には稗貫を、次男の義季には和賀を分けて代官としました。義季は既に荏田郡に分地され、荏田義季と称していましたが、その子義行を和賀郡に下向させ、初めて和賀氏を名乗ることになりました。

・光明寺 浄土宗大本山-天照山蓮華院光明寺。寺伝によれば、開基は北条経時、開山は浄土宗三祖然阿良忠です。山門-五間三戸二重門は鶴岡八幡宮から移築されたものとされます。庭園は小堀遠州作と伝える蓮池を中心とした庭園と、「三尊五祖来迎の庭」と称する枯山水庭園があります。尚、山門を入れて直ぐ右側に「高倉健」の墓碑があります。

・和賀江島 鎌倉幕府の開府以降、相模湾の交通量は増加していたが、付近の前浜では水深の浅い事から舳が必要であり、事故も少なくなかった。このため、貞永元年(1232年)に勧進聖の往阿弥陀仏が、相模湾東岸の飯島岬の先に港湾施設を築く許可を鎌倉幕府に願い出ました。執権の北条泰時はこれを強く後援して泰時の家臣である尾藤景綱、平盛綱、諏訪盛重らが協力しています。

・極楽寺 3代執権北条泰時の弟である重時は、この地に真言律宗の極楽寺(霊鷲山感応院極楽律寺)を、僧「忍性」に開山させました。この重時の乳母が霊山尼と云われる荏田義季の次女です。鎌倉時代の半ば以降に忍性が極楽寺の長老となってからは、和賀江島の敷地の所有および維持・管理の権利と、その関所を出入りする商船から升米とよばれる関米を徴収する権利が極楽寺に与えられていました。

・宝戒寺 萩寺と云われ親しまれています。北条義時以来代々執権の館があったところで、最後の執権北条高時が一族と共に新田義貞に攻め滅ぼされた後、足利尊氏が後醍醐天皇の勅許を得て高時一族らを弔う為に建てたもので、開山は円観上人です。和賀の祖、荏田義季次男、義春の小田嶋系和賀氏は3代で滅び、その領地が寄進され宝戒寺領となりました。

・荏柄天神 この地は、かつて和田義盛一族の和田胤長の館があったところですが、「和田合戦」において敗れ去り、その後北条義時の領となりました。義時の側室として、和賀の祖、荏田義季の娘が、義時亡きあとこの地の持仏堂を守り、荏柄尼となって余生を送った場所です。